



あれだけ過熱していた
新型インフルエンザの報
道も、たった2ヶ月であ
まり見かけなくなった。
こんなタイトルで原稿を
書くのが恥ずかしいくら
いだ。だが、世界的には、
冬のインフルエンザシー
ズンを迎えた南半球を中
心に感染拡大が続き、W
HOは6月12日に「フェ
ーズ6」を宣言。とうと
う世界的な蔓延状況にあ
ることが確定的になって
しまった。

WHOの発表(6月26
日現在)では、世界の感
染者数は6万人弱(先月
の今頃は1万5000人
余)、死者数は263人
(同100人余)で、死
亡率は0.4%となつて
いる。感染国について見
ると、総数は100ヶ国
を超え、アメリカ、メキ
シコ、カナダというトッ
プ3は先月と同じだが、
チリ(4位)52000人、
オーストラリア(6位)3
3000人など、

ばならない。それまでの
間に国としてどんな対応
を取れるか、ということ
が問われている。
「水際作戦の検証」
ここで、今回の新型イ
ンフルエンザ騒ぎで明ら
かになった問題を私な
りに整理しておきたい。

第一は、水際作戦は可
能なのか、また効果はあ
るのか、ということだ。
今回は、国内の検疫体制
を総動員しようだが、
それでも現場の検疫官や
医療関係者の苦勞は大変
なものだったろうし、検
査を受ける側の乗員・乗
客も迷惑なことの上な
多々ありそう。今回の
ウィルスが弱毒性と判明

した段階、国内で感染者
が出た段階、など、幾つ
かの段階で、対応レベル
や対応内容を素早く
変更し、そのことを端
的に表明することは出来
なかったのか、というこ
とだ。

国内感染者が急増し、
水際作戦に用いている医
療資源を国内感染防止に
振り向けるべき、と判断
しなければならぬ時期
は必ず来る。6月19日付
の厚生労働省が発表し
た「医療の確保、検疫、
学校・保育施設等の臨時
休業の要請等に関する運
用指針(改定版)」がそれ
に当たると思うが、一般
的な印象で言えば「遅過
ぎる」と言わざるをえな
い。

「運用指針は変更すべ
き時期が必ず来る」とい
うことを前提に、素早く
的確な判断のために収集
すべきデータや判断の根
拠とすべきメルクマー
エンザ」の時にとつする
のか、ということまで含
めて、早く国民に示して
いく必要があると思う。
それを十分せずに、マ
スクと手洗いやうがい
を励行しているだけでは、
水際作戦無意味論の声は
抑えきれないのではな
らうか。

「危機管理の視点から
政府の対応」
第一は、危機管理の視
点から、政府の見解や方
針を、もっと素早く端的
に明らかにできないか、
ということだ。
首相官邸のホームページ
を見ると、4月25日の
情報連絡室の設置、第1
回総理指示(26日)、当
面の政府対処方針発表(27
日)、新型インフルエンザ
対策本部設置と基本的対
処方針決定(28日)と統
一的に過剰報道や過剰反
応を抑えられなかった、
ということを直視して、
次につなげる財産にする
ことが必要だ。

政府方針としては、た
とえば「本命は強毒性鳥
インフルエンザ。今回は
弱毒性なので、国とし
てはWHOと協調してそ
れなりの対応をとるが、
国民は季節性インフルエ
ンザと同様の対応をとつ
てほしい。それでどこま
でできるかデータをと
り、本命の鳥インフルエ
ンザの流行に備えるのが
政府方針だ。季節性イン
フルエンザでも一定の死
者は出る。マスコミもそ
れを念頭に置いて、冷静
な報道をしてほしい。」な
どとしたらどうか。
これで、今回の社会的
混乱がどの程度防げたか
わからないが、弱毒性だ
が生命の危険もあるので
感染防止には万全を。だ
が、過度に恐れることは
ない。国民は、警戒を怠
らない一方、冷静に行動
を。また、休校やイベン
ト自粛等については自治
体や企業でそれぞれ判断
すべき。」などと、一見も
つとだが、いざ行動し
ようとするとき一体どう
したらいいのかわからない
ことを言うより、はるか
に良かったのではないか
と思う。

豚インフルエンザと危機管理 その3

いる。感染国について見
ると、総数は100ヶ国
を超え、アメリカ、メキ
シコ、カナダというトッ
プ3は先月と同じだが、
チリ(4位)52000人、
オーストラリア(6位)3
3000人など、

倍、カナダは9.4倍に
増えている。まあ、「まし
な方」と言えるのかも知
れないが…。

秋以降のインフルエン
ザシーズンには、感染者
数のさらなる急拡大が始
まると思っておかなけれ
ばならない。

ただ、反省すべき点も
多々ありそう。今回の
ウィルスが弱毒性と判明

した段階、国内で感染者
が出た段階、など、幾つ
かの段階で、対応レベル
や対応内容を素早く
変更し、そのことを端
的に表明することは出来
なかったのか、というこ
とだ。

国内感染者が急増し、
水際作戦に用いている医
療資源を国内感染防止に
振り向けるべき、と判断
しなければならぬ時期
は必ず来る。6月19日付
の厚生労働省が発表し
た「医療の確保、検疫、
学校・保育施設等の臨時
休業の要請等に関する運
用指針(改定版)」がそれ
に当たると思うが、一般
的な印象で言えば「遅過
ぎる」と言わざるをえな
い。

「運用指針は変更すべ
き時期が必ず来る」とい
うことを前提に、素早く
的確な判断のために収集
すべきデータや判断の根
拠とすべきメルクマー
エンザ」の時にとつする
のか、ということまで含
めて、早く国民に示して
いく必要があると思う。
それを十分せずに、マ
スクと手洗いやうがい
を励行しているだけでは、
水際作戦無意味論の声は
抑えきれないのではな
らうか。

「危機管理の視点から
政府の対応」
第一は、危機管理の視
点から、政府の見解や方
針を、もっと素早く端的
に明らかにできないか、
ということだ。
首相官邸のホームページ
を見ると、4月25日の
情報連絡室の設置、第1
回総理指示(26日)、当
面の政府対処方針発表(27
日)、新型インフルエンザ
対策本部設置と基本的対
処方針決定(28日)と統
一的に過剰報道や過剰反
応を抑えられなかった、
ということを直視して、
次につなげる財産にする
ことが必要だ。

政府方針としては、た
とえば「本命は強毒性鳥
インフルエンザ。今回は
弱毒性なので、国とし
てはWHOと協調してそ
れなりの対応をとるが、
国民は季節性インフルエ
ンザと同様の対応をとつ
てほしい。それでどこま
でできるかデータをと
り、本命の鳥インフルエ
ンザの流行に備えるのが
政府方針だ。季節性イン
フルエンザでも一定の死
者は出る。マスコミもそ
れを念頭に置いて、冷静
な報道をしてほしい。」な
どとしたらどうか。
これで、今回の社会的
混乱がどの程度防げたか
わからないが、弱毒性だ
が生命の危険もあるので
感染防止には万全を。だ
が、過度に恐れることは
ない。国民は、警戒を怠
らない一方、冷静に行動
を。また、休校やイベン
ト自粛等については自治
体や企業でそれぞれ判断
すべき。」などと、一見も
つとだが、いざ行動し
ようとするとき一体どう
したらいいのかわからない
ことを言うより、はるか
に良かったのではないか
と思う。

「感染拡大の状況」
その前に、世界の感染
拡大の状況を見ておこ
う。

先月は感染者数(35
9人)で一時世界4位と
なった日本だが、現在は
1千人余で中国に次ぐ9
位に下がっている。ただ、
日現在)では、世界の感
染者数は6万人弱(先月
の今頃は1万5000人
余)、死者数は263人
(同100人余)で、死
亡率は0.4%となつて
いる。感染国について見
ると、総数は100ヶ国
を超え、アメリカ、メキ
シコ、カナダというトッ
プ3は先月と同じだが、
チリ(4位)52000人、
オーストラリア(6位)3
3000人など、

倍、カナダは9.4倍に
増えている。まあ、「まし
な方」と言えるのかも知
れないが…。

秋以降のインフルエン
ザシーズンには、感染者
数のさらなる急拡大が始
まると思っておかなけれ
ばならない。

国内感染者が急増し、
水際作戦に用いている医
療資源を国内感染防止に
振り向けるべき、と判断
しなければならぬ時期
は必ず来る。6月19日付
の厚生労働省が発表し
た「医療の確保、検疫、
学校・保育施設等の臨時
休業の要請等に関する運
用指針(改定版)」がそれ
に当たると思うが、一般
的な印象で言えば「遅過
ぎる」と言わざるをえな
い。

「運用指針は変更すべ
き時期が必ず来る」とい
うことを前提に、素早く
的確な判断のために収集
すべきデータや判断の根
拠とすべきメルクマー
エンザ」の時にとつする
のか、ということまで含
めて、早く国民に示して
いく必要があると思う。
それを十分せずに、マ
スクと手洗いやうがい
を励行しているだけでは、
水際作戦無意味論の声は
抑えきれないのではな
らうか。

「危機管理の視点から
政府の対応」
第一は、危機管理の視
点から、政府の見解や方
針を、もっと素早く端的
に明らかにできないか、
ということだ。
首相官邸のホームページ
を見ると、4月25日の
情報連絡室の設置、第1
回総理指示(26日)、当
面の政府対処方針発表(27
日)、新型インフルエンザ
対策本部設置と基本的対
処方針決定(28日)と統
一的に過剰報道や過剰反
応を抑えられなかった、
ということを直視して、
次につなげる財産にする
ことが必要だ。

政府方針としては、た
とえば「本命は強毒性鳥
インフルエンザ。今回は
弱毒性なので、国とし
てはWHOと協調してそ
れなりの対応をとるが、
国民は季節性インフルエ
ンザと同様の対応をとつ
てほしい。それでどこま
でできるかデータをと
り、本命の鳥インフルエ
ンザの流行に備えるのが
政府方針だ。季節性イン
フルエンザでも一定の死
者は出る。マスコミもそ
れを念頭に置いて、冷静
な報道をしてほしい。」な
どとしたらどうか。
これで、今回の社会的
混乱がどの程度防げたか
わからないが、弱毒性だ
が生命の危険もあるので
感染防止には万全を。だ
が、過度に恐れることは
ない。国民は、警戒を怠
らない一方、冷静に行動
を。また、休校やイベン
ト自粛等については自治
体や企業でそれぞれ判断
すべき。」などと、一見も
つとだが、いざ行動し
ようとするとき一体どう
したらいいのかわからない
ことを言うより、はるか
に良かったのではないか
と思う。

政府方針としては、た
とえば「本命は強毒性鳥
インフルエンザ。今回は
弱毒性なので、国とし
てはWHOと協調してそ
れなりの対応をとるが、
国民は季節性インフルエ
ンザと同様の対応をとつ
てほしい。それでどこま
でできるかデータをと
り、本命の鳥インフルエ
ンザの流行に備えるのが
政府方針だ。季節性イン
フルエンザでも一定の死
者は出る。マスコミもそ
れを念頭に置いて、冷静
な報道をしてほしい。」な
どとしたらどうか。
これで、今回の社会的
混乱がどの程度防げたか
わからないが、弱毒性だ
が生命の危険もあるので
感染防止には万全を。だ
が、過度に恐れることは
ない。国民は、警戒を怠
らない一方、冷静に行動
を。また、休校やイベン
ト自粛等については自治
体や企業でそれぞれ判断
すべき。」などと、一見も
つとだが、いざ行動し
ようとするとき一体どう
したらいいのかわからない
ことを言うより、はるか
に良かったのではないか
と思う。